

# ハマハマチェンジリンス

## 髪に残留する薬剤とは？

## Point 1

### ◆還元剤

カーリング剤1液やパーマ1剤の主成分で、システアミン、チオグリコール酸、チオグリコール酸グリセリル（いわゆるGMT）などです。これらは、カールをつけるために髪に塗布して髪の内部のS-S結合を還元するのですが、その役目が終わったら逆にそれ以上は働いてほしくない成分でもあります。つまり、カールをつけるのに十分な還元が行われたら、それ以上は還元してほしくない。

だから、還元剤の働きを止める + 取り除く必要があるのです。

### ◆過酸化水素

カラー剤やパーマ2剤に含まれています。カラー剤に含まれる過酸化水素は髪のメラニン色素を分解して脱色したり、染料を酸化重合して発色させる役割です。パーマ2剤に含まれる過酸化水素は、パーマ1剤で還元した髪の中のS-S結合を酸化して再結合させる役割です。しかし、その役割が終わったら今度は髪に対して悪さをしてしまいます。

例えば、メラニン色素やカラー剤を分解してしまうのでカラーの色が早く落ちてしまう、髪のケラチンを過剰に酸化して強度が低下するためパーマがだれやすい、などです。

だから、過酸化水素の働きを止める + 取り除く必要があるのです。

## ハマハマが行う不活性化・分解とは？

## Point 2

◆還元剤にあるチオール基（SH基）が髪のS-S結合を切ってくれるのですが、このチオール基が残っているといけないので、この働きを止めます。それを不活性化と言います。つまり、チオール基を酸化してS-S結合（ジスルフィド結合）にしてしまうのです。そうすれば、還元剤としての働きはしなくなります。還元剤を不活性化させるには、ヘマチンや銅クロロフィリンナトリウムなどのポルフィリン化合物を使うのが有効的です。

カーリング1液やパーマ1剤をつけてテストカールした後に水洗しますが、この水洗である程度の還元剤は洗い流されます。

しかし、髪の中に残った若干の還元剤が悪さをしてしまうので、この微量の還元剤を不活性化させる必要があります。

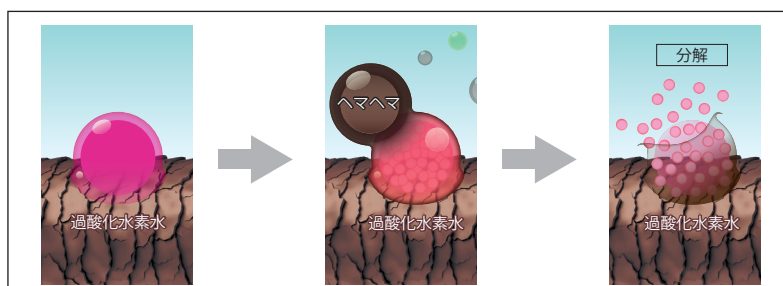


不活性化

※イメージ図です。

◆過酸化水素は活性酸素を発生し、その活性酸素がいろいろな役割をしますが、逆に悪さもしてしまいます。この過酸化水素の働きを止めるには、分解するのが一番です。すべて活性酸素にして、その活性酸素も分解・不活化してしまうのです。

過酸化水素を分解させるには、ヘマチンや銅クロロフィリンナトリウムなどの、ポルフィリン化合物を使うのが有効的です。水洗である程度の過酸化水素を除去した後、微量に残留する過酸化水素をこれらで分解させていきます。ただ、それでも過酸化水素はごくごく微量残ってしまうのです。そこで登場するのがルイボスです。ルイボスエキスは、このごくごく微量残った過酸化水素を時間をかけてじっくりと分解していく効果があるのです。



分解

※イメージ図です。